小山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語表現 I
科目基礎情報					
科目番号	0030		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義・演習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子創造工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Prepare Your Speech NAN'UN-DO PHOENIX				
担当教員	岡田 晃				
到達目標					
<p>1. 様々なシチュエーションについて5～10分間程度の簡単な発表ができる。</p> <p>2. グループ内で協力しながらテーマに沿ったプレゼンの準備ができる。</p> <p>3. プレゼンに必要な語彙、英語表現を理解し、使用できる。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 プレゼンテーション		様々なシチュエーションについて5～10分間程度の高度な発表ができる。	様々なシチュエーションについて5～10分間程度の簡単な発表ができる。	様々なシチュエーションについて5～10分間程度の簡単な発表ができない。	
評価項目2 グループプレゼン準備		グループ内で自ら先導し、協力しながらテーマに沿ったプレゼンの準備ができる。	グループ内で協力しながらテーマに沿ったプレゼンの準備ができる。	グループプレゼンの作成で協力できない。	
評価項目3 語彙と英語表現		プレゼンに必要な語彙、英語表現を理解し、必要に応じて自由に使用できる。	プレゼンに必要な語彙、英語表現を理解し、使用できる。	プレゼンに必要な語彙や英語表現を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 ③ 学習・教育到達度目標 ⑥ JABEE (E)					
教育方法等					
概要	国内外の学会発表などのアカデミックな場面や英語弁論大会及びビジネスコミュニケーションの場面で、英語でプレゼンテーションを行う技能を身につける。				
授業の進め方・方法	上記1～3について：各試験の平均が60%以上を満たしている場合、若しくは各試験の平均と、提出課題、小テスト、授業への取り組みの内容と回数を設定水準に基づいて行った評価との合算が、本校所定の基準を満たしたと認められる場合、目標到達とする。 上記4について：年間を通じて、個人もしくはグループ発表を数回行い、教員評価もしくはクラス学生全体のアンケートにより評価を行う。				
注意点	とにかく間違いを恐れずに積極的に英文に取り組んでください。英語における表現力アップのための基礎的な科目なので積極的な取り組みを期待しています。わからない点は、授業内外で確認すること。また、上記に示した内容は変更する場合がありますので注意すること。変更する場合は予め授業中に指示します。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit 1 About Myself	必要な語彙と表現の習得	
		2週	Unit 1 About Myself発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		3週	Unit 2 My Hero	必要な語彙と表現の習得	
		4週	Unit 2 My Hero発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		5週	Unit 3 Talking about the Future	必要な語彙と表現の習得	
		6週	Unit 3 Talking about the Future発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		7週	Unit 4 Giving Instruction	必要な語彙と表現の習得	
		8週	Unit 4 Giving Instruction発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
	2ndQ	9週	Unit 5 Promoting Places or Products	必要な語彙と表現の習得	
		10週	Unit 5 Promoting Places or Products発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		11週	Unit 6 Comparing Two Things	必要な語彙と表現の習得	
		12週	Unit 6 Comparing Two Things発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		13週	Unit 7 Describing Graphs	必要な語彙と表現の習得	
		14週	Unit 7 Describing Graphs発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		15週	総合演習	これまでの復讐	
		16週			
後期	3rdQ	1週	Unit 8 Chronological Order: History	必要な語彙と表現の習得	
		2週	Unit 8 Chronological Order: History発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		3週	Unit 9 Advantages and Disadvantages	必要な語彙と表現の習得	
		4週	Unit 9 Advantages and Disadvantages発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		5週	Unit 10 Research and Presentation 1	必要な語彙と表現の習得	
		6週	Unit 10 Research and Presentation 1発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		7週	Unit 11 Research and Presentation 2	必要な語彙と表現の習得	
		8週	Unit 11 Research and Presentation 2発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
	4thQ	9週	Unit 12 Research and Presentation 3	必要な語彙と表現の習得	
		10週	Unit 12 Research and Presentation 3発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		11週	Unit 13 Graph Analysis	必要な語彙と表現の習得	
		12週	Unit 13 Graph Analysis発表・英作文	語彙と英語表現の使用	
		13週	Unit 14 Pros and Cons of Capital Punishment	必要な語彙と表現の習得	

		14週	Unit 14 Pros and Cons of Capital Punishment	語彙と英語表現の使用
		15週	総合演習	これまでの復讐
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	2	
			英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発音できる。	2	
			英語の発音記号を見て、発音できる。	2	
			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	2	
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	2	
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	2	
		高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2		
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	
			自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
			毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	
自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3				

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	10	0	0	100
基礎的能力	90	0	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0